|  |
| --- |
| 社会科学習指導案  単元名  中国・四国地方  ～自然環境（自然災害・防災）を中核として～  日　時　　令和３年11月12日（金）２校時（９：40～10：30）  　 学　級　　第２学年B組（男子11人，女子17人，合計28人）  　 場　所　　多目的教室 |

授業　三次市立塩町中学校

研修グループ　Ｂグループ

　安芸太田町立安芸太田中学校

　北広島町立大朝中学校

　庄原市立総領中学校

|  |
| --- |
| **単元について** |

1. 単元観

本単元は，中学校学習指導要領解説社会編地理的分野（２）内容Ｃ－（３）「日本の諸地域」の内容である。本単元を学習するにあたり，（内容の取扱い）ウ－(ｲ)の考察の仕方に留意し，本単元の中国・四国地方では「①　自然環境を中核とした考察の仕方」を基にして学習を進める。

中国・四国地方は，生徒の生活基盤である三次市が属している地域である。北は日本海，南は太平洋に面し，その間に瀬戸内海がある。瀬戸内海には大小3000ほどの島が点在している。中国地方の中央には中国山地があり，標高1000ⅿ前後のなだらかな山が多い。四国地方の中央部には四国山地があり，標高1500ⅿを超える険しい山が多い。中国山地の北側を山陰，中国山地の南側（山陽）と四国山地の北側を瀬戸内，四国山地の南側を南四国と分類する。3つの地域で気候が異なり，山陰は冬に雪や雨が多い日本海側気候区，瀬戸内は年間を通して降水量が少ない瀬戸内気候区，南四国は1年を通して温暖で，夏から秋に降水量が多い太平洋側気候区となっている。

中国・四国地方には，土砂災害危険箇所が約15万か所あり，地方別でみても最も多い数値である。近年大規模な災害が起きており，平成26年広島豪雨災害，平成30年西日本豪雨災害，令和３年８月11日～20日にかけての前線による大雨では多くの死傷者・被災者が発生した。防災への取り組みは持続可能な地域づくりには欠かせないものとなっている。

防災の取り組みを充実させるためには，それぞれの自然条件や人為的条件が災害に与える影響について理解を深めることが必要となってくる。そこで，「なぜ同じような気候，気象条件でも自然災害の規模が違うのだろうか。」という単元を貫く問いを設定した。この問いで，自然災害が多いという中国・四国地方の自然環境に着目させながら，中国・四国地方を捉えていきたい。

なお，中国・四国地方は小単元であり，日本の諸地域という中項目の一部である。日本の諸地域の学習を学ぶにあたり，「私たちの住む中国地方と似ている地方はどこだろう？」という中項目を貫く問いを立てた。これは自分たちの暮らす中国地方をものさしにして，各地方を様々な観点で捉えるなかで類似点や相違点，つながりを考え続け，次の単元「地域の在り方」へつなげたいという意図で設定している。また，「本質的な問い」としては，「環境（地理的条件）は人にどのような影響を与えるのか？」を設定し，中項目を貫く問い，小単元の問いを設けた。

【本質的な問い】

自然環境などの地理的条件は，どのように人の活動に影響を与えているのか。

【中項目を貫く問い】

私たちの住む中国地方と似ている地方はどこだろう。

【単元を貫く問い】

なぜ，同じような気候，気象条件でも，自然災害の規模が違うのだろうか。

【個別の問い】

・山陰では，豪雪によってどのような災害が起こったのだろう。また，どのように対応したのだろう。

・同じ瀬戸内気候でも，香川県の水不足が深刻なのはなぜだろう。

・なぜ，記録的な大雨であっても，高知県には大きな被害が出にくいのだろう。

・広島県内において，土砂災害が起こりやすい地域とそうでない地域があるのはなぜだろう。

【中項目「日本の諸地域」学習計画】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習する地域  （配当時間）  【考察の仕方】 | 小単元の中心となる問い | 鍵となる概念や知識 |
| 北海道地方  （４時間）  【自然環境】 | 「北海道地方では，冷涼で広大な自然を生かして，どのような生活を送っているのだろう。」 | 広大な土地　冷涼な気候　豊かな自然  自然に適応した暮らし  自然を生かした農業・水産業が盛んである |
| 東北地方  （５時間）  【伝統産業】 | 「東北地方で見られる伝統産業や祭りはどのようにして受けつがれてきたのだろう。」 | 自然（やませ）　農業「日本の穀倉地帯」  果樹栽培　農閑期に伝統産業  祭り（五穀豊穣を願って）　東日本大震災 |
| 中部地方  （５時間）  【産業】 | 「中部地方では，なぜ工業や農業の生産額が高いのだろう。」 | 北陸地方：米作り　伝統産業  中央高地：果樹　精密機器  東海地方：工業　輸送用機器　輸出入 |
| 関東地方  （４時間）  【交通】 | 「関東地方になぜ人口や産業などが集中しているのだろう。」 | 東京一極中心　東京大都市圏  政治・文化・経済の中心  交通網（地域・日本・世界とのつながり） |
| 近畿地方  （５時間）  【人口】 | 「近畿地方の人口分布にはどのような特徴があるのだろう。」 | 京阪神中心　環状線・ターミナル駅  人口分布　滋賀・奈良北部→ベットタウン・ショッピングモール  　　　　　紀伊山地・日本海側→過疎化  琵琶湖の環境保全　台風が多い　阪神淡路大震災 |
| 九州地方  （5時間）  【環境保全・防災】 | 「九州地方では，どのような環境保全の取り組みが行われているのだろう。」 | ゲリラ豪雨　水害　洪水　台風が多い  公害病　火山活動　ヒートアイランド現象  自然を生かした産業　　持続可能な地域づくり |
| 中国・四国地方  （7時間）  【自然環境・防災・持続可能な地域】 | 「中国地方では，なぜ，同じような気候，気象条件下でも，自然災害の規模が違うのだろうか。」 | 気候（日本海側の気候・瀬戸内の気候・太平洋の気候）  都市化による開発　本州四国連絡橋  自然災害　豪雪　干害  西日本豪雨　大雨　土砂災害　　　防災・減災 |

中項目の指導と評価について，生徒の考察のし易さ，次単元のつながり，学ばせたい視点に留意しながら次のように計画した。

次単元の「地域の在り方」で学校所在地である三次市を舞台に学習を進めるので，中国・四国地方を学習のまとめとして７番目に位置付けることとした。

はじめに視覚的にとらえやすい「自然地形」と「産業」を先に学習するように計画した。そこで，１番目に「自然との共生―自然を生かした産業―」の視点で北海道地方を，２番目に「自然と伝統産業」の視点で東北地方を，３番目に東北地方の伝統産業と北陸地方の伝統産業をつなげ，「産業」の視点で中部地方を，４番目に産業の活性化に関わって，「立地面」と「交通網の広がり」に着目する点から関東地方を，５番目に「都市圏」「産業集積」「東京一極集中」の学びをいかして，「人口―都市・村落の地域づくり―」の視点で近畿地方を，大雨・台風などの自然災害に関するつながりから６番目に，「環境問題―自然との共生・防災―」の視点で九州地方を置くこととした。そして九州地方での学習の深まりを期待して，７番目に地域の課題でもある自然災害について考えさせたいと思い，「自然環境・防災・減災の取り組み―持続可能な地域づくり―」の視点で中国・四国地方を学習することとした。

1. 生徒観

　本単元の授業実施に当たり，事前に行ったアンケート等の結果は以下の通りである。

①本校生活アンケートより一部抜粋（令和３年７月５日実施）２年生58名対象

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 質問事項 | 肯定的 | 否定的 |
| 社会の勉強は好きです。 | 78.2% | 21.8% |
| 社会の授業では，分からない用語や事例は，資料集等を使って調べています。 | 72.7% | 27.3% |
| 社会の授業では，自分の考えを話し合うときに理由を挙げて説明しています。 | 72.7% | 27.3% |
| 社会の授業では，目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしています。 | 87.3% | 12.7% |

②本単元に関するレディネス（２年生58名中56名が回答）

・アンケート「三次市の良いところと課題はそれぞれ何ですか？」に対する結果は以下の通りである。

（人）

（人）

③ICTに関するアンケート調査（令和３年10月　２年Ｂ組　28人対象）

・自由記述で，「タブレットを使用した授業の良いところと課題を書いてください。」という質問に対して結果は以下の通りである。

　　【良いところ】

・楽しい。（８人）

・分からないことを調べられる。調べて深められる。（８人）

・分かりやすい。（７人）

・資料が見やすい。（４人）

・便利。効率的。（４人）

・みんなの意見が見ることができる。（３人）

・写真（資料）を作ってまとめることができる。（２人）

・１人で考える時は自分なりにまとめられるので理解しやすい。班ですると協力してできるので楽しい。

・教科書ではできないことができる

・これからの社会でタブレットを使うことが多くなるから

・いつもと違うのでやる気が出る。

【課題】

・エラーや接続が悪い時がある。（７人）

・操作が分からない，慣れない，苦手だから大変である。（４人）

・目が悪くなる。（２人）

・楽しくてうるさくなる。（１人）

以上の結果から，気づきや課題について５点挙げる。

１点目は，小テストより，基礎・基本的な知識の定着に課題がある。

２点目は，①より，社会科が好きですという質問に対し，約22％の生徒が否定的な解答である。授業を通して，社会科が好きだと思う生徒を少しでも増やしたい。

３点目は，①より，「資料から自分の考えを書いたり，話したりする」と答えている生徒の割合は87.3％だが，「自分の考えを話し合うときに理由を挙げて説明する」生徒の割合は72.7％と減少していることから，根拠をもとに話し合いをすることが十分できていないことが考えられる。

４点目は，②のアンケート調査より，約半数の生徒が地域の課題がないもしくは考えていないことが分かった。本校が伸ばしたい資質・能力の１つである「課題発見力」の向上をめざす。

５点目は，タブレットを使う授業を楽しみにしている生徒が多いことである。しかし，使い方に不安を抱いていたり，難しいと感じたりしている生徒もいることに配慮しなければならない。

1. 指導観

本単元の学習を通して，次の４点を重点的に指導したい。

１点目は，近年身近な地域で大規模災害が起きているが，地域の課題として考えている生徒は少ないことから，主体的に学ぶために，新聞記事を提示して，より自分事として考えられるように工夫したい。

２点目は，地理的条件が災害に与える影響について，地形，気候，雨温図の読み取りを地図帳，モニターやワークシートを活用して，視覚的に分かりやすく提示し，基礎・基本的な知識を定着させたい。

３点目は，「日本の諸地域」の最後の単元ということを生かし，「小単元の問い」だけではなく，「中項目の問い」についてもしっかり考えさせることで，学習の深まりや新しい課題の発見をさせたい。なお，「日本の諸地域」で学習した見方・考え方をいかして，次の単元につなげるため，本単元までの各地方の単元においても，単元が終わるごとに，「中項目を貫く問い」に対する答えを考える場面を設定していた。

４点目は，タブレットを使い，さまざまな資料を提示する。そして，その資料を活用し，根拠をもとに話し合うために，プレゼンテーションソフトを活用して意見をまとめていく活動を取り入れたい。

（４） 単元の目標

　・中国・四国地方の特色や課題を理解することができる。

　・中国・四国地方について，自然環境を中核とした考察の仕方で，自然災害に関する事象とそこで生ずる課題について理解することができる。

　・自然環境等の諸条件が自然災害に与える影響を，地域の広がりや地域内の結び付き，人々の対応などに着

　　目して，他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現できる。

・中国・四国地方について，よりよい社会の実現を視野に地域で見られる課題を主体的に追究することがで

きる。

（５）単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・中国・四国地方について，その地域的特色や地域の課題を理解している。  ・自然環境を中核とした考察の仕方で取り上げた自然災害に関する事象と，そこで生ずる課題や防災対策を理解している。 | ・自然環境等の諸条件が自然災害に与える影響を，地域の広がりや地域内の結び付き，人々の対応などに着目して，他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・中国・四国地方について，よりよい社会の実現を視野に地域で見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |

（６）指導と評価の計画（全７時間） 〇：評定に用いる評価　　●：学習改善につなげる評価

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 学習内容  「生徒の思考の流れ」 | 評　　　　　価 | | | | |
| 知技 | 思 | 主 | 評価規準 | 評価方法 |
| １ | 【（日本の諸地域）中項目を貫く問い】  私たちの住む中国地方と似ている地方はどこだろう？  【中国・四国地方の生活の舞台】  ・中国・四国地方の自然地形  ・異なる３つの気候  「中国・四国地方の気候の特色について雨温図を読み取り，地形と関連付けて説明しよう。」  ・中国・四国地方の課題  ―各地で起こる自然災害について―  ・課題の設定  　中国・四国地方の自然災害の様子の資料を提示する。  「雨温図では，瀬戸内は雨が少ないとまとめたけど，最近大雨の災害が多いね。」  「中国・四国地方って思ったよりも自然災害が多い。」  「災害の起きている場所は集中している。」  「同じ瀬戸内地方でも災害が起きているところとそうでないところがある。」  【（中国・四国地方）単元を貫く問い】  なぜ，同じような気候・気象条件でも，自然災害の規模が違うのだろうか。  ・課題の把握  ・単元を貫く問いに対する予想を考える。  ・単元を貫く問いに対する自分の考えをワーク  シートに書く。  「分からない。」  「世界で温暖化が進んで気候が変化してきているから。」 | ○  技 | 〇 | ● | ・中国・四国地方の気候の特色について，雨温図から読み取ったことを自然地形と関連付けて表現している。  ・自然環境（自然災害・防災）を中核とした考察の仕方で，単元を貫く問いに対する答えを予測し，見通しをもって追究しようとしている。 | 注：本単元は「日本の諸地域」の最後の小単元であり，他の６地方は学習済である。  ・ワークシート【技】  ・ワークシート【主】 |
| ２ | 【中国・四国地方の人々の営み】  ・中国・四国地方の人口と産業  　瀬戸内に集まる人口  ・自然環境を生かした農業・林業・水産業  瀬戸内工業地域  「中国・四国地方の人口の分布や産業の特色について説明しよう。」 | ●  知 |  |  | ・中国・四国地方の人口と産業について，地域的な違いや自然環境の特色などと関連付けて概観し，理解している。 | ・ワークシート【知】 |
| ３ | 【交通網の発展による地域の変化】  ・本州四国連絡橋と地域の結びつき  ・都市の役割とその課題  ・高齢化が進む農村と町おこし  「本州四国連絡橋によって，各地域にどんな変化があったのだろう。」 | ●  知 |  |  | ・中国・四国地方について，地域的特色や地域の課題を理解している。 | ・班活動・ワークシート【知】 |
| ４ | 【自然災害と人々のくらし―地域によって異なる自然災害―】  「山陰では，豪雪によってどのような災害が起こったのだろう。また，どのように対応したのだろう。」  ・日本海側の豪雪被害  ・2017年の鳥取での豪雪による立往生の事例を紹介し,人々の対応についてまとめる。  ・水不足による干害  「同じ瀬戸内気候でも香川県の水不足が深刻なのはなぜだろう。」 | ○  知 | ● |  | ・自然環境を中核とした考察の仕方で取り上げた自然災害に関する事象と，そこで生ずる課題や防災対策を理解している。  ・自然災害について，地域的な違いや人々の対応などに着目して，複数の資料を関連付けて多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・観察・班活動・ワークシート【知】  ・観察・班活動・ワークシート【思】 |
| ５ | 【自然災害と人々のくらし―地域によって異なる自然災害―】  ・太平洋側の台風・大雨による水害  「なぜ，記録的な大雨であっても，高知県には大きな被害が出にくいのだろう。」 |  | ● |  | ・自然災害について，地域的な違いや人々の対応などに着目して，複数の資料を関連付けて多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・観察・班活動・ワークシート【思】 |
| ６  本時 | 【自然災害と人々のくらし―地域によって異なる自然災害―】  「広島県内において，同じような気象条件（降水量）でも土砂災害が起こりやすい地域とそうでない地域があるのはなぜだろう。 |  | ○ |  | ・自然災害について，地域的な違いや人々の対応などに着目して，複数の資料を関連付けて多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・観察・班活動・ワークシート【思】 |
| ７ | 【まとめ①】中国四国地方の単元を貫く問いに対する考えをまとめる。  【まとめ②】日本の諸地域の単元を貫く問いに  対する考えをまとめ，単元の学び  を振り返る。 |  | ○ | ○ | ・自然環境等の諸条件が自然災害に与える影響を，地域の広がりや地域内の結び付き，人々の対応などに着目して，他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現している。  ・自身の学習の経緯について振り返り，学習の方法や留意点について自身の学びを確認，調整しようとしているとともに，他地域と比べるなど，次の学習へのつながりを見出している。 | ・観察・ワークシート【思】【主】 |

|  |
| --- |
| **本時の学習** |

1. 本時の目標

過去に発生した県内の土砂災害の要因について，自然地形や人口分布などに着目して，多面的・多角的に考察し，表現することができる。

1. 本時の学習展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 過  程 | 学習活動  「生徒の思考の流れ」 | 指導上の留意事項（◇）  （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て） | 具体の評価規準  【観点】（評価方法） |
| 導  入 | 【（中国・四国地方）単元を貫く問い】  なぜ，同じような気候・気象条件でも，自然災害の規模が違うのだろうか。  １　課題を発見させる。  ・平成30年の西日本豪雨の被害状況    ・広島市三入と庄原市の降水量のグラフを比較する。    課題  「広島県内において，同じような気象条件（降水量）でも土砂災害が起こりやすい地域とそうでない地域があるのはなぜだろう。」  ２　見通しをもたせる。  ・課題に対する個人の考えを書く。  【生徒の記述例】  ・広島県の中でも都市部は人が多いから被害も多くなる。山の多いところは人口が少なく，家なども密集していないから被害が少ない。  めあて  広島県の土砂災害に関する資料を読み取り，土砂災害の原因を考えまとめることができる。  ３　本時のめあてを確認する。 | ◇活動時間を確保するために，導入をテンポよく行う。  ◇災害の写真を提示する際に，生徒の様子に配慮する。  ◇降水量が多いだけで土砂災害が起きるとは限らないことをおさえる。  ◇総雨量を提示し，生徒に疑問を持たせる。  ◇単元の問いを想起させる。 |  |
| 展  開 | ４　課題を解決する。  ・各個人の考えをグループで伝える。  ●ICTの活用  タブレットを使って，必要な資料を用いて，課題に対する答えをグループでスライドに作成していく。  ・Googleのプレゼンテーション機能を活用して，班で課題に対する答えをまとめていく。  「山が多い方が，土砂崩れが起きそうなのにどうしてだろう。」  「広島市は花崗岩・真砂土でもろい地質らしいよ。」  「庄原・三次のあたりは広島市に比べて，花崗岩が広がっていないね。」  「広島市は都市化により人口の増加によって住居，工場が増加している。」  「広島市って山を切り拓いて，山のすぐそばに家が建っているよ。」  「中国・四国地方は平野が少ないから，家を建てるのが大変だね。」  「でも，三次も同じじゃないかな。」  「交通網も充実してきたから，開発したところは土砂災害が起きやすいのかな。」  「森林が多いと，多くの木が水を吸収してくれているよ。」  「雨以外に土地の様子が災害に影響を与えるのかな。」    【タブレット　Googleクラスルームの資料箱に掲載する資料】  ・H26.8.20広島豪雨被害状況・土砂災害危険箇所（資料１）  ・山間部まで居住地域が広く分布（資料２）  ・森林化と流出土砂量の推移（資料３）  ・都市の拡大と土砂災害（資料４）  ・広島県の地質は？（資料５）  ・広島市・庄原市の災害状況の写真等  ・中国新聞令和３年８月15日の洪水発生の地図と写真  ・課題に対するグループの考えをまとめる。  ・他の班に，作成したスライドを用いて発表する。 | ◇活動上の注意点  ・資料はクラスルームの資料箱のものを利用する。  ◆机間指導を行い，資料の読み取りが難しい生徒に読みとり方を伝える。  ◆タブレット操作ができているか活動中確認する。  ◆話し合いが進まない班  ①ノートの活用：これまで学習したこと（自然地形・交通網や住宅地などの再開発の影響など）も振り返りながら考えてみるよう伝える。  ②各資料の着目してほしいところを伝える。  ◆話し合いで見当外れになっているグループには,①資料「都市の拡大と土砂災害」の土砂災害が起きている地形や環境に着目させる。②「広島県の地質は？」から庄原市と広島市の地質の違いに着目させる。 | ・自然災害について，地域的な違いや人々の対応などに着目して，複数の資料を関連付けて多面的・多角的に考察し，表現している。【思】（観察・班活動・ワークシート） |
| ま  と  め | ５　本時のまとめをする。  ・土砂災害警戒区域の資料の提示  中国・四国地方は約15万カ所で7つの地方の中で１番多い。  広島県は約４万８千か所で全国最多である。  「新たに開拓したところなど土砂災害が起きやすいところに気を付けないといけない」  ６　次回に向けて  ・本時にグループでまとめたことをふまえて，個人でまとめをすることを伝える。 | ◇各自のタブレットを閉じてから，資料を提示する。 | 【生徒のまとめ例】  ・平成28年の豪雨災害で広島県内の海沿いの人口の集中している所で大規模な被害を受けている。よって，人口が集中している都市部での被害が大きい。  ・山のすぐそばに居住地域が多く，自然破壊が進み地盤が緩くなっている。  ・都市化が進むと，土砂災害の範囲が拡大する。  ・崩れやすい「まさ土」が広島県に広がっている。  ・木が水をしっかり吸収し，そこの木が強くなって土砂崩れを防ぐ。だから，森林が減っているところでは土砂災害が起きやすい。  よって，広島市は全体的に都市化が進み地盤が緩くなっているし，広島の地質は，元々崩れやすいのでより被害が大きい。 |